［ここに入力］

※事務局記入欄
No.D-16

部門名：
校内研修プログラム開発・実践部門

エントリー名：宮城県多賀城高等学校　菊田　みどり
（平成 30 年度第２回次世代リーダー育成研修）

活動名：※どのような課題をどのような手法で解決したのか、わかりやすく伝える案件名を記入してください。
校内研修リノベーション主タイトル（12 文字以内）
「多高ｍｉＮＩＴＳ」の開発副タイトル（16 文字以内）

解決すべき課題：※活動を行う前に、課題や目標をどのように設定しましたか？視点などを含めて記載してください。また、当機構主催研修終了者は、研修から何を学んだかに触れつつ記載してください。

教員にとって職責の遂行や資質能力の向上のために研修は不可欠である。そのため，研修機会は充実の一途をたどっているが，急激な社会の変化に伴う新たな教育課題への対応や多岐に渡る業務による多忙化などから，研修自体に多忙感や負担感を感じてしまうケースも少なくない。そこで，負担感や抵抗感を減らしつつ，持続可能で大きな効果が得られる研修へとリノベーションすることが必要だと考えた。

目標・方針：※課題を解決するためにどんなストーリーやシナリオを構想して、活動内容を組み立てたのか、記載してください。

校内研修の一新は新たな多忙感や負担感を生むため，本校教員の興味・関心の高い研修内容に着目し，現行の校内研修のリノベーションによって新たな価値の創出を目指す。小さな（ｍｉｎｉ）負担感や抵抗感で，持続可能かつ大きな効果が得られる校内研修にするために，ＮＩＴＳにおける研修成果を取り入れた校内研修リノベーションプログラム「多高ｍｉＮＩＴＳ」を開発・実践し，検証を行うことで汎用性を追求する。

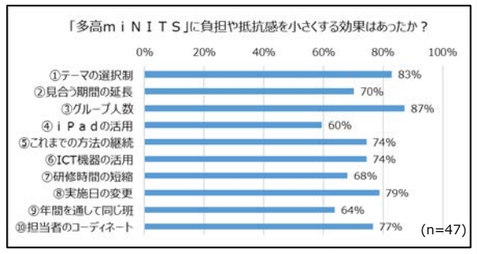
活動内容：※目標・方針に基づいてどのような活動を行ったか、また、複数の活動を展開した場合はその位置づけや関連性を記載してください

1　本校の全教諭を対象とした校内研修に関する予備調査（H31.12 実施）【図 1】
2　予備調査を基に実施したＳＷＯＴ分析【図 2】
3　仮説の設定と本校における校内研修リノベーションプログラム「多高ｍｉＮＩＴＳ」の開発【図 3】
4　校内研修における「多高 ｍｉＮＩＴＳ」の実践【写真 1】と検証

活動の成果：※課題設定に対して、どんな影響、変化あったか、参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

予備調査の結果から授業改善の校内研修において，「多高ｍｉＮＩＴＳ」の実践をした。本研修は通年で計画した研修であるが，現時点での成果を把握するため全体会の中間報告終了後の７月に本校の全教諭を対象にアンケート調査を実施した【図 4】。 どの項目においても，60%以上の教員が「効果があった」と答えた。特に①研修テーマの選択制，③グループの人数調整，⑧実施日の変更は，数値や中記述においてねらい通りの好評価をいただいた。
また，ｉＰａｄやアプリの使い方に詳しい教員だけでなく，研修を通して使い方を理解した教員がその成果をグループ内で共有する様子や，中間発表で他グループに刺激を受けたグループが自主的に活動を延長する様子が見受けられた。これらは，「多高ｍｉＮＩＴＳ」の副産物としてＡＲＣＳモデルに近い状態が起き，ねらい以上の新しい価値が創出されたのではないかと考えている。

【図 4】アンケート調査の結果



アピールポイント（アイディアや工夫）：※3～5 つ程度、箇条書きしてください

・本プログラムを参考にすれば，多くの学校で自校化（○○ｍｉＮＩＴＳ）して取り組むことができる
　→新たな研修プログラムを考え出すのは大変だが，現行の研修を生かすリノベーションであれば着手しやすい
・各教員の興味・関心に対応できるよう，研修テーマや取り組み方など可能な範囲で選択権を残している
　→研修への抵抗感が小さくなるとともに，ＡＲＣＳモデルへと高められるなど新たな価値の創出につながる
・今後，学校で更に普及していくであろう ICT 機器を活用した研修にも対応できるプログラムとなっている
　→ＩＣＴ機器の使用を推奨することで，使い方の習得や活用方法の模索，実践例の学び合いにつながる

＜写真、図表添付欄＞

【図 1】予備調査によって見えた本校の実態

Q1　興味・関心のある研修内容	Q2　校内研修で負担や抵抗感を感じること	Q3　負担に感じない研修時間	Q4　改善をする上での優先順位
①授業 ②進路指導 ③ICT	①時間の確保 ②多忙感 ③興味・関心との不一致	①１時間以内 ②３０分以内 ③１５分以内	①選べる研修内容 ②研修数の調整 ③勤務時間内の実施

【図 2】予備調査を基に実施したＳＷＯＴ分析

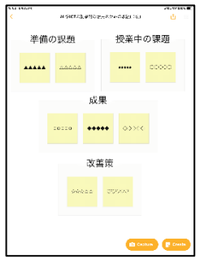
【Ｏpportunity（外部環境の支援的要因）】 ①校内外での研修機会に恵まれている ②各種事業指定や外部機関との連携により多種多様な経験ができる	【Ｓtrength（内部環境の強み）】 ①ｉＰａｄをはじめとしたＩＣＴ機器や利用環境が整っている ②ＩＣＴに関する知識に富んだ教員が複数いる ③研修に対して意欲的な教員が多い ④災害科学科の開設により特色ある取組ができる
【Ｔhreat（外部環境の阻害的要因）】 ①機関研修や外部での研修などを含めると，研修数が過度になる教員がいる ②指定事業や連携事業により業務が多岐に渡り，研修時間の確保が難しいときがある	【Weakness（内部環境の弱み）】 ①振り返りの時間や改善のサイクルが十分に確保されていない研修がある ②校務が多岐に渡るため多くの教員が強い多忙感を感じている ③研修への選択権が少なく，自発性の低下につながっている

【図 3】仮説の設定と本校における校内研修リノベーションプログラム「多高ｍｉＮＩＴＳ」の開発

【仮説】
授業改善の校内研修において，現行の研修にリノベーションプログラム「多高ｍｉＮＩＴＳ」を実施すれば，これまで以上に小さな負担感や抵抗感でも持続可能で大きな効果が得られる研修になる。

多高ｍｉＮＩＴＳ	負担感や抵抗感を小さくするためのねらい
①研修テーマを選択制に変更	・各教員の興味・関心や立場に応じて研修を実施できる
②授業を見合う期間を延長	・業務や行事と両立しやすくして授業を見合う機会を確保する
③グループの人数を減らす	・グループの機動性が向上し短時間での活動を可能にする ・授業を見合う回数が減り，確実に見合うことができる
④ｉＰａｄとアプリの活用	・付箋などの準備物が減る　・１５分で参観とまとめを終える方法の導入が可能になる ・アプリ内で付箋の記入や共有などの思考活動を容易にし，考えの深まりにつながる
⑤これまでの方法の継続	・従来の方法と新たな方法から個別に選択できるようにし，取りかかりやすくする
⑥ＩＣＴ機器の活用	・準備の負担や研修に係る所要時間を減らす
⑦研修時間を１時間以内に短縮	・各グループと全体での研修時間を分け，各グループの都合で実施しやすくする ・放課後の時間を有効活用できる
⑧全体研修の実施日の変更	・定期考査中から職員会議後に変更し，成績処理や年休等の取得に使えるよう配慮
⑨年間を通して同じ班で活動	・ＰＤＣＡサイクルの時間を確保する　・継続的なグループ活動により活動の質が向上する
⑩担当者のコーディネートは最初だけ	・担当者の業務量を軽減する　・取り組み方などに選択権を残し，個人や班の自発性を促す

【写真 1】「多高 ｍｉＮＩＴＳ」の実践



iPad を活用したまとめの例

全体会（中間発表会）の様子